

ひまわり

2016
SEP



もくじ

- 2 情勢 ～障害者差別解消法施行から半年後の夏～
- 3 ハートフェスタ2016開催のお知らせ
- 4 地域協議会二周年記念フォーラムの報告
- 5 昔のこと、私のこと、おしえてあげます！
- 6 お知らせ・時・ご寄付

第二かめおか作業所 夏祭り(上段)
ごくろうさん会(下段)

社会福祉法人 亀岡福祉会

法人本部：〒621-0033 京都府亀岡市蔭田野町佐伯大門30-1
TEL:0771-24-2596 FAX:0771-24-2597
HP <http://www.kamecomyu.net/>

柳谷香理

KAORI YANAGITANI

相談支援センター巴(ともえ)センター長

障害者差別解消法施行から 半年後の夏 ～7月の参議院選挙を終えて～

平成28年4月に障害者差別解消法(障害を理由とする差別的解消の推進に関する法律)が施行されて、初めての国政選挙(参議院選挙)が行われました。

これまで、障害のある人は少なからず「投票のしづらさ」という差別を体験してきました。今回の選挙でどのような対応がとられたのか、どのように感じたのかを、実際に投票に行った人や関係者、また、投票していない人からお話をお聞きし、障害者差別解消法について考えてみたいと思います。

「有権者として初めて 投票に行きました!」

グループホーム利用者で、今まで選挙に行つて投票をするという経験がない方がおられました。障害が重いということもあり、選挙に行くという経験を意味あるものにするにはどうしたらいいものかとグループホーム担当職員として悩み、ご家族に相談したところ、「行かせてやりたい」が選挙に行けるなんて、考えたことがなかったと言われました。ご本人には、事前に「選挙に行く」ということを説明しました。ご家族、職員が見守る中、係員さんに手伝ってもらつての投票で、ご本人は有権者として、しっかりと指さしをして立候補者を選ぶ経験をされたのです。

ただ、意思疎通が難しいため、何度もやりとりをされていきました。立候補者の名前の文字が小さく見えにくいことや文字のみであるため、障害のある人も高齢の人にもわかりやすいように顔写真を添えたり、文字を大きくするなど、視野に訴えられるような工夫が必要だと感じました。

投票する権利 プライバシーを守ること

ある脳性マヒがある身体障害の方は、「以前は投票用紙に記入する台(車いす用)が他の投票台と同じ所にあつた。代筆が必要なので、声に出して言わないといけないが、どんなに小さい声で言つても隣の人に聞こえてしまつた。プライバシーが守られてないと思つていたが、何年か前から、その台を離れておいてもらえるようになり、安心して投票できるようになった」。「期日前投票に行く」と理由をたずねられるが「障害があるからですね」と言われる。仕事の時だつてあるし、用事がある時もある。決めつけられるのはイヤ」と言つておられました。

高齢の障害のある人たちにとつても、動きにくさゆえに投票しづらい状況であることは確かです。プライバシーが守られるようになったことで、投票しやすくなった部分もありますが、地元の投票所では段差があつたり、障害のある人の対応に慣れていないなど、行きづらさが残っています。

もっと身近なものにして欲しい 18歳からの選挙

選挙に行つていない人からのお話を聞くと、「人や内容が分からない」「静かすぎるのが緊張する」「人が多いのが苦手」「知り合い、友達となら一緒に行けそう」などの意見が出されました。障害のある人にとつては、「わからないこと」「行きにくい所」と身近なものになつていないのが現状です。

また、18歳から有権者となつて、初めての選挙でもありました。全国的にみると、支援学校で、選挙についての学習、模擬選挙を実施した学校もあつたようです。

しかし、いき投票に行つた人がどれだけのか・・・将来を担う若者が、自分たちの生活と政治とのつ

ながりを知つて有権者としての責任を果たすには、もっと時間をかけて、丁寧な政治教育や合理的配慮(環境調整)が必要です。福祉事業所内でも、事前に政治や制度に関する学習会を開いて、「こんな生活がしたい」「こんなふうにしてほしい」とみんな話し合い、政治を自分たちのためのものとして捉える取り組みを進めることが求められます。また、投票しやすい環境づくりのために発信をする(声をあげる)こともよりよい社会をつくつていく一歩になるのではないのでしょうか。

あたりまえに働き 暮らすということ

障害者差別解消法は、障害があつてもなくてもだれもお互いを尊重して生活が送れるよう、差別を解消して、だれもが安心して暮らせる社会の実現を目的としています。今回の参議院選挙での対応にかかわらず、世間では、盲聾者の方が店側から入店を拒否されたり、車いすや視覚障害の方が、道を通ろうとしても自転車や障害物がいっばいで自由に通ることができないなど、合理的配慮に欠けることがたくさんあります。

私たちは、これまで、ハートフェスタや国会請願署名活動、事業所での取り組み、相談支援を通して、「どの人も尊い命を持つていて、あたりまえに働き暮らしたい思いを持つていること」を地域のみなさんと共有し、よりよい社会となるよう共に歩みを進めてきました。今後も、様々な取り組みや運動を通して、だれもが自己決定を保障され、大切にされる社会の実現をめざしていきたいと思ひます。

開催まであと少し!

ハートフェスタ2016

～広がる笑顔 みんなの輪～ ぜひ来ててください!

～ハートフェスタってどんなイベント?～

年に1度、地元京都府亀岡市にて地域の方とのふれあいを大切にしてきた祭りとして、市内の障害のあるひとたちが働く4法人が、共同開催で行っているお祭りです。20年以上の歴史があり、近年では毎年2,000人を超える地域の皆様にご来場いただいています。ステージ企画や、ふれあい広場、模擬店やパザー、作業所自主製品の販売などを行っています。大人から子供まで楽しんでいただけるお祭りです

日時:2016年10月16日(日)
場所:亀岡運動公園広場



ステージ発表あり!

模擬店あり!

ご当地キャラが来る!



お子様連れも楽しめる!

ボランティアにご協力ください!

『昼以降なら...』など、ご協力が可能な時間帯のみでも結構です。お申し込み後、ご都合が悪くなれば、1週間前までにキャンセルのご連絡をいただければ結構です。ご協力よろしくお願いたします!

お問い合わせ先

ハートフェスタ2016実行委員会 ボランティア担当:西尾
連絡先:デイセンターばればれ
〒621-0005 亀岡市保津町上火無28-86
TEL:(0771)21-2276 FAX:(0771)22-7622
URL:<http://www.kamecomyu.net/> mail:n-nishio@kamecomyu.net

自然豊かな亀岡の未来をつなぐ地域協議会 二周年記念フォーラム

～地域の誇りが人をつなぎ、小さな経済を動かしていく～



当日の様子(第三かめおか作業所)

自然豊かな亀岡の未来をつなぐ地域協議会は、平成26年の設立から二周年を迎えました。

「おらがまち・むらのすごいところ大発見」と題し、亀岡で様々な活動がされている団体の皆さまにご登壇いただき、亀岡地域の素晴らしさを再発見する取り組みをはじめ、先進地域への視察など、たくさんのご参加をいただきながら、活動してまいりました。

またオリジナルブランド「丹亀」事業では、地域の課題をモノヅクリで解決を図る事を目的に「ごちそう味噌」など新たに4商品を増やし、東京の展示会などに出席してきました。

7月30日(土)に行われた二周年記

念フォーラムでは、基調講演として『これからのコトオコシ〜新たな地域産業をつくる』をテーマに地域協議会が発足した際にご協力いただいた、立命館大学産業社会学部の景井充教授による講演会をおこないました。景井先生が関わっていらつしやる立命館大学産業社会学部のプロジェクト『京北プロジェクト』の課題や展望、またこの協議会のようなコトオコシ型の活動についてご講演いただきました。

京北プロジェクトでは、学生に安全安心な食材を提供する「食の里親プロジェクト」や京北唯一の酒造会社とのブランド立ち上げ「日本酒造りプロジェクト」、旧細野小学校・山国小学校の再活用プロジェクトなど様々なプロジェクトを通して、「地域」の概念の多様性を認めた上で「地域」をどう自立させて、永続的な活動としてくか地域住民を巻き込んで活動しております。

自然豊かな亀岡の未来をつなぐ地域協議会設立三年目となる今年は、2年間の活動を通して再発見したこの亀岡の地域の素晴らしい資源をつなぎあわせ、地域の課題が解決できるよう、より具体的な「コトオコシ」の動きを地域の皆様と共に作っていく予定にしています。詳細については随時発表してまいりますので、よろしく願います。

(事務局長 阿部洋平)

おらがまちむらのすごいところ大発見



当日の様子(亀岡市人権福祉センター)

8月31日(水)に第14回おらがまちむらのすごいところ大発見を開催しました。今回のゲスト亀岡市宮前町の森隆治さん(NPO法人チョロギ村 村長)のお話しは、地域住民とともに活気のある村作りがしたいという地域への思いがいっぱい詰まったお話しでした。薬草栽培や加工品の開発、薬膳レストランの開設、生活楽しみ塾など、住民参加型の取り組みは地域協議会でもとても参考になるお話しでした。

協議会を通して様々な人が「つながり」、その関わった皆様の活動が幅を広がるよう点と点をつなげていければと思っております。お越し頂いた皆様本当にありがとうございました。

昔のことと私のこととおしえてあげますー!

亀岡福祉会には、はたらく委員会、くらす委員会、ささえる委員会という3つの委員会があり、より良い支援のための活動や、学習を行っています。ささえる委員会では、8月1日、第二かめおか作業所で、『昔のこと、私のこと、おしえてあげます!』という学習会を行いました。

この学習会では、亀岡共同作業所ができて間もない頃より通所されている三浦靖弘さんと、中川道代さんのお二人に講師になってもらい、その方の生きてこられた人生や、できたての頃の作業所の話を教えてもらいました。

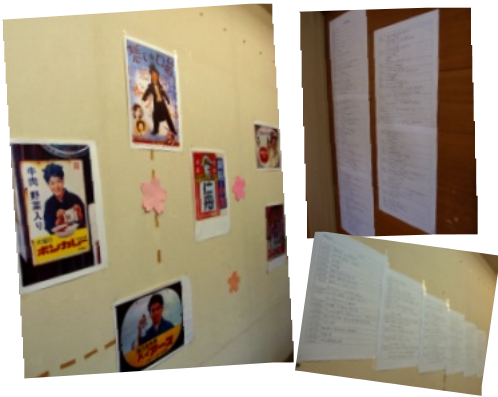
学習会の会場には、昭和を感じさせる飾り付けと、昭和30年頃の流行歌がながれ、知らない年代の者でも、なんだか懐かしい雰囲気でした。

講師のお二人には、自分の人生を肯定的に捉えてもらうこと、受講する職員は、歴史を知りこれからのことを、より深く考えることを目指した学習会は、とてもおだやかな雰囲気でした。

後半は、他の利用者さんも参加され座談会のようになり、まだまだ話し足りない様子でした。他の方にも講師になってもらい、第二弾、第三弾と続けていきたいと思えます。



主役の三浦さん(写真右)と中川さん(写真左)。事前に作った原稿を真剣な表情で読んでくださいました。



壁には昭和中期の看板や、歌謡曲年表、社会時事年表を貼り、当時は懐かしんでいただきました。



会場には多くの職員が集まりました。



座談会の頃にはお二人とも緊張が解け笑顔に



座談会は参加者全員が円になって。

お知らせ

亀岡福祉会ホームページもご覧ください!

URL <http://www.kamecomyu.net>



亀岡福祉会

検索

亀岡福祉会のホームページはリニューアルしてから早くも1年が経ちました!みなさんご覧いただけましたか?
ホームページでは亀岡福祉会の基本的な情報はもちろん、販売会のお知らせ等、各事業所からのニュースや自主製品をご覧になることができます。また、これまで発刊したひまわりのバックナンバーもご覧になることができます。
現在は、自主製品がホームページからご購入いただけるよう準備中です。頻繁にニュースを更新!とはいかない現状ですが、是非一度「亀岡福祉会」で検索してみてくださいね!

ご寄付 7月/8月

- 7/19 楠新聞舗様 しょうゆセット
- 7/24 太田 勲様 お米
- 7/27 (株)能勢工務店様 コーヒージュースセット
- 7/27 原田自動車様 コーヒー・ジュース
- 7/28 (株)ちよかわモーターサービス様 コーヒージュースセット
- 8/4 佐藤 祥子様 ドリップコーヒーセット

ご寄付ありがとうございました。

時

先日、夏季休暇に帰省されたメンバーさん。5月の連休に帰れず、「お盆には帰りたい」そんな強い思いがありました。「自分で働き、自分のお金で、母にプレゼントしたい。仕事頑張る」そんな心中を話してくれました。いつまでも母が大好き。それ以上に息子の今後が心配でたまらないお母さん。

そんな私も、中3の息子が心配。母は、「心配」が「信じる」に変わるまで安らかに眠れない」と思いながら命のリレーをしている。そんな中、旅行先からお土産が届き、いつものお菓子や漬物等で段ボール一杯に詰まっている。「あっ。キーホルダー」

「親思う心に勝る親心。今日のおとずれなんときくらん。松陰」長州 萩 おもいキーホルダーだ。筆筒はキーホルダーじゃないけど、カバンにつけるには、重い。とりあえず筆筒にしよう。お正月には、また会いに行くからね。と戦後七一年 母七一歳少し老けたかな。たまに出会う私の長男もきつと同じこと思っているだろう。だから、花柄の服でも身に着けて今日もファイト。

メンバーの中でも高齢の親御さんが増えていて・・・。これからの居場所。居心地の良い場所を求めさまようジプシーにならない為に、改めて「あたりまえに働き、あたりまえにくらししていく」という意味を噛みしめた夏でした。

(N)